

信濃毎日 新刊

理髪店 おしゃれサロン コマンド (東御市)

お店

ものごと

「こんにちは、いらっしゃいます」。10日午後の理髪店「おしゃれサロンコマンド」。店主の斎藤公夫さん(58)と妻道子さん(56)、長男正志さん(28)が明るい声で出迎えた。東御市の和小学校2年、深井春紀君(8)が、母親(35)と手をつないで入ってきた。

同市の田中商店街の一角にある同店。理容師免許を持つ一家3人で店を切り盛りする。深井君は高機能広汎性発達障害があり、店のはす向かいにある宅幼老所「岩井屋」に通っている。同店を訪れたのは2回目だ。

「洗面台の色は黒だね」「はさみの大きさは違うの?」「どれくらいで(散髪は)終わるの?」。多動性があり一つのこと集中しにくい深井君は、髪を切られながら店内を見回し、次々に質問する。「はさみの大きさはみんな違うん

散髪通じ障害者と触れ合い

だよ」。斎藤さんは質問に答えながら、深井君の頭の動きに合わせてはさみを動かし、手際よく切っていく。

道子さんと正志さんの手も借り、30分ほどで終了。「男前になったね」。斎藤さんが声を掛けると、さっぱりした髪形になった深井君がはにかんだ。

店内で見守った母親は「家で夫が切る時は、嫌がつて3日もかかる。あまりにスムーズでびっくりした」。以前、他の理髪店に散髪を頼んだことがあったが、障害があると知ると「刃物を扱うので、何かあったら困る」と断られたと

いう。「髪をちゃんと切ってもらえたので、本人の自信にもつながったと思う」と喜んだ。

斎藤さんは店を1976(昭和51)年に開業。地域の子どもからお年寄りまで常連客は幅広い。

3年ほど前、岩井屋の管理者、岩井孝司さん(47)は高齢の通所者から「お店で髪を切りたい」と要望を受け、同店に依頼するようになった。通所者の家族は介護などで疲れていて、散髪に連れて行ったり、自宅で切ったりする余力がないこともある。現在は通所者のうち、高齢者も含めて10人ほどが同店に通う。

障害児の中には、髪形の参りにと雑誌の切り抜きを持ってくる女の子もいる。「話すと皆いい子で楽しい」と道子さん。斎藤さんも「それなりに大変だが、抵抗感はないですよ」。

同店は、岩井屋の通所者が来るようになる前から障害児数人を受け入れているという。岩井さんは「将来、社会に出て自立を目指す障害者にとって、地域参加の一つになっている」と感謝。斎藤さんは「これからも髪を切りながら触れ合っていきたい」と笑顔を見せた。

(水曜日に掲載します)



飽きないように話し掛けながら深井君の髪を切る斎藤さん

東御市田中223の1

☎0268・62・0094

午前8時～午後7時。定休は毎週月曜と毎月第1火曜、第3日曜。